

婦人関係調査資料 No. 70

勤労者家庭主婦の生活に関する調査

— 結果報告書 —

保存資料
婦人課

昭和51年10月

労働省婦人少年局

は し が き

近年、婦人の自主的な人生設計の必要がうたわれているが、この調査は、一般の勤労者家庭の主婦が現実の生活の中で、この課題をどのように受けとめているかを把握し、今後の施策の参考に資するため実施した。

調査の実施に際して、御協力をいただいた事業場や対象となった主婦の方々に厚くお礼を申し上げる。

昭和52年3月

労働省婦人少年局

目 次

は し が き	
調査の概要	1
調査結果	2
I 調査対象者の概況	2
II 主婦の就業状況	8
1. 就業状況	8
2. 「職業資格等」の活用状況	13
III 就業に関する主婦の意識	15
1. 就業の理由	15
2. 就業希望者の不就業の理由	18
IV 主婦の余暇活動の状況	20
1. けいこ事、スポーツ、奉仕活動等	20
2. 「職業資格等」取得のための勉強等	20
V 自立に関する主婦の意識	25
1. 夫に事故ある場合の家計維持手段	25
2. 夫定年退職後の家計維持手段	26
VI 生活に関する主婦の意識	29
VII 附 表	31

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

婦人の自主性を高め計画的な人生設計を促すという観点から勤労者家庭における主婦の生活実態と意識を明らかにし、労働者家族福祉対策のための基礎資料とする。

2. 調査の範囲

(1) 地域 全国

(2) 対象

従業員規模30人以上の製造業民営事業場から一定の方法で抽出した約300事業場に雇用される常用労働者の妻2641名。

3. 調査実施期間

昭和51年10月1日から10月31日まで

4. 調査機関

労働省婦人少年局——各婦人少年室

5. 調査方法

通信自計の方法による（調査票様式、巻末）

6. 調査事項

(1) 主婦の就業の状況

(2) 主婦の余暇活動の状況

(3) 主婦の生活設計

調 査 結 果

I 調査対象者の概況

調査対象となった主婦は2641人で、その年齢構成は、25～29歳が20.5%、30～34歳、35～39歳、40～44歳が大体同数の各16.7～8%、45～49歳が11.7%、50～54歳が9.2%、55歳以上及び24歳以下が大体同数の各4.2%である(表I-1)。

参考までに、昭和50年国勢調査(1%抽出速報)の女子有配偶者(農家・商家・勤労者家庭を含む全世帯)の年齢構成を掲げた。

表I-1 調査対象者の年齢構成

	計	16～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55歳以上
実 数	2,641	110	542	444	440	440	310	243	112
構 成 比	100.0	4.2	20.5	16.8	16.7	16.7	11.7	9.2	4.2
国勢調査 (昭和50年)	100.0	5.7	16.9	16.9	15.5	14.7	12.8	10.2	7.3

(注) 国勢調査は、16～24歳は20～24歳、55歳以上は55～59歳の数字である。

次に、学歴構成は、「中学・旧制高小卒まで」が過半数を占め56.3%、「高校・旧制女学校卒」が39.5%、「高校・旧制女学校卒」までの学歴が95.8%となっている。従って「短大・工専・旧制高専卒」が2.8%、「大学卒以上」が0.5%となっている(表I-2)。

参考までに昭和45年国勢調査による女子有配偶者(農家・商家・勤労者家庭を含む全世帯)の学歴構成を掲げた。

表 1-2 調査対象者の学歴構成

	計	中学・旧制 高小卒まで	高校・旧制 女学校卒	短大・工専・ 旧制高専卒	大学卒以上	不明
実 数	2,641	1,486	1,044	75	12	24
構 成 比	100.0	56.3	39.5	2.8	0.5	0.9
国勢調査 45年	100.0	55.3	39.5	3.9	1.3	-

(注) 国勢調査は20～60歳未満の数字である。

夫が働く事業場の業種別に調査対象者の構成をみると、機械器具製造業等が35.0%，金属及び金属製品製造業等23.1%，ガラス・セメント・窯業・土石製品製造業が13.8%，化学工業，食料品製造業，木材・木製品製造業がほぼ同数で各約7.5%，パルプ・紙製造業が5.8%である(表1-3)。

表 1-3 夫の職場の業種別調査対象者の構成

(%)

計	食料品 製造業	木材又は 木製品製 造業	パルプ又 は紙製造 業	化学工業	ガラス又 はセメン ト製造業， 窯業又は 土石製品 製造業	金属精錬業， 非鉄金属精 錬業，金属 材料品製造 業，鑄物業， 金属製品製 造業，金属 加工業，め っき業	機械器具製 造業，電気 機械器具製 造業，輸送 用機械器具 製造業，船 舶製造又は 修理業
1000 (2,641)	7.5	7.3	5.8	7.5	13.8	23.1	35.0

又、夫の職場の企業規模別に調査対象者の構成をみると、労働者数が100人～299人及び300人以上の企業が各34.0%，30人～99人の企業が32.0%である(表1-4)。

表 I-4 夫の職場の企業規模別調査対象者の構成

計	(%)		
	30~99人	100~299人	300人以上
1000 (2,641)	32.0	34.0	34.0

夫の収入額は(税込・賞与等特別な支給分は除く、昭和51年9月分)、「15万円未満」の者が最も多く61.8%となっており、次に「15万円以上20万円未満」の者が28.6%で、収入20万円未満の者が約9割を占め、「20万円以上25万円未満」7.7%、「25万円以上」1.7%となっている。

次に、夫の仕事について現場と管理・事務部門に分けてみると、「現場作業者が多く64.5%で、「管理・事務・技術労働者」は35.5%である。「管理・事務・技術労働者」の方が「現場作業者」より収入が高い者が多い(表I-5)。

参考までに、毎月勤労統計調査による製造業男子平均現金給与総額(51年9月分)をみると、「管理・事務・技術労働者」193,386円、「生産労働者」156,905円である。

表 I-5 夫の労働の種類及び収入階級別調査対象者の構成

	計	15万円未満	15万円以上 20万円未満	20万円以上 25万円未満	25万円以上	不明
計	1000 (2,641) <100.0>	61.8	28.6	7.7	1.7	0.2
管理・事務・ 技術労働者	1000 (937) <35.5>	49.3	36.1	10.9	3.4	0.3
現場作業者	1000 (1,704) <64.5>	68.7	24.5	5.9	0.8	0.1

(注) 昭和51年9月分税込収入額

対象者の家庭を核・複合家族別にみると、核家族は66.6%、複合家族は33.3%で、2対1の比となっている。複合家族では、「夫の親」と同居している家庭が総数の22.6%で、「本人の親」と同居している者が7.4%となっている(表1-6)。

表1-6 核・複合家族別調査対象者の構成

(%)

計	核家族	複 合 家 族 (注)				
		計	本人の親 と同居	夫の親と 同居	既婚の子供 の家族と同居	その他と同 居及び不明
1000 (2,641)	666	333	7.4	22.6	3.6	5.8

(注) 1人で2以上○印をつけた者がいるので内訳の合計は計と合致しない。

子供の有無についてみるとほとんどの者が子供があり(93.6%)、子供のない者は僅かである(6.4%)。又、調査対象者総数の38.9%が就学前の子供がある。主婦の年齢階層別にみると29才以下では84.7%、30~34歳の主婦の70.7%が就学前の子供を持っている(表1-7)。

表1-7 年齢階層別子供の有無等

	計	子供なし	子 供 あり			
			計	就学状況等(多答)		
				未就学児	小学生	中学生以上
計	1000 (2,641)	6.4	93.6	38.9	32.4	35.1
29歳以下	1000 (652)	13.3	86.7	84.7	2.8	0.9
30歳 ~34歳	1000 (444)	4.7	95.3	70.7	63.5	14
35歳 ~39歳	1000 (440)	3.0	97.0	28.4	72.3	16.8
40歳 ~49歳	1000 (250)	4.0	96.0	4.8	26.0	68.0
50歳 ~59歳	1000 (355)	5.1	94.9	-	1.7	93.2

住居の種類をみると、「持家」に住む者が64.8%と最も多く、次に「民営の借家・借間」が15.9%、「社宅等」が10.0%、「公営・公団・公社の借家」が9.1%の順となっている（表1-8）。

表1-8 住居の種類別調査対象者の構成

(%)					
	計	持家	社宅等	公営・公団 ・公社の借家	民営の借家・借間
計	1000 (2641)	64.8	10.0	9.1	15.9

夫の勤労収入によって生活している勤労者家庭では、不測の事情により夫の勤労に支障が生じた場合、家庭の生活設計に大きな影響があると考えられる。本調査では労働災害をとりあげて、夫の労働災害の有無と主婦の生活設計との関係を見ることとし、調査対象者は、対象事業場の労働者で過去3年半の間に休業4日以上労働災害を受けた経験を持つ者の妻1,032人と、並びに労働災害の経験のない者の中から抽出した1,609人である。

そこで、労働災害を受けた者の休業した日数についてみると、休業日数「8日～1カ月」の者が最も多く44.5%となっており、次に「1カ月1日～6カ月」の者が38.2%、「4日～7日」の者9.7%で、休業日数6カ月以内の者が全被災者の92.4%となっている。

労働の種類別にみても、これと同様な傾向を示し「管理・事務・技術労働者」「現場作業員」ともに休業日数「8日～6カ月」の者が多いが、「管理・事務・技術労働者」では「4日～7日」の者が13.4%、「6カ月以上」の者が3.5%と被災程度が「現場作業員」に比し若干軽易な方に偏りを示している（表1-9）。

このように、労働災害の経験があつて、現在職場に働いている者は、休業日数からみて労働災害の程度が比較的軽易なものが大部分であり、本調査が意図した夫の労働災害の有無と主婦の生活設計との相関は、結果的には一部にしかみられなかった。すなわち、主婦の就業状況については若干その影響がみられ（後述）たが、その他の事項に関しては、特にみとめられなかった。

表 1-9 夫の労働の種類別労働災害による休業日数

	計	休業 4 日 ～ 7 日	休業 8 日 ～ 1 カ月	休業 1 カ月 1 日～ 6 カ月	休業 6 カ 月 以上	不 明
計	100.0	9.7	44.5	38.2	6.3	1.3
管理・事務・ 技術労働者	100.0	1.34	44.8	38.3	3.5	—
現場作業者	100.0	8.8	44.4	38.1	7.0	1.7

(注) 過去 3 年半の間に休業 4 日以上労働災害を受けた者を対象とする。

Ⅱ 主婦の就業状況

1 就業の状況

調査対象となった主婦に、「あなたは、今何か収入を得る仕事をしていますか。仕事をしている場合、それはどんな仕事ですか。」という質問に対しては、「収入を得る仕事をしている」と答えた者が多く59.6%、「していない」と答えた者は40.4%である。収入を得る仕事をしている者(以下「就業者」という)がどんな仕事をしているかをみると、雇用者として働いている者が多く、対象者総数の39.7%を占めており、このうちフルタイムとして働いている者は25.7%、パートタイムは14.0%となっている。家庭内職をしている者(業者から材料を支給されて加工するもの)は、10.6%で、主婦が自営業をしている者は6.4%となっている。

主婦の就業状況を年齢階層別にみると、20歳代は最も就業者の割合が少なく44.9%であるが、年齢階層が高くなるにしたがって就業者の割合が増加し40~44才で最高に達し76.8%となり、これ以後就業している者は減少の傾向を示すが、50歳以上でも54.9%が就業しており、30~34歳の層(52.5%)よりも就業している者がいくぶん多くなっている。就業者のうち雇用者として働いている主婦の割合は、やはり40~44歳の層が最も多く、同年齢層の調査対象の56.4%となっており、フルタイムは34.6%、パートタイムは21.8%となっている。しかし就業者のうち家庭内職をしている主婦の割合は35~39歳の層が13.9%と最も多く、30~34歳が13.5%でこれに次いでおり、雇用者として働いている者とは年齢層について異なった傾向がみられる(表Ⅱ-1)。

次に、学歴別に主婦の就業状況をその学歴別にみると、学歴が高い者ほど不就業者の割合が高い傾向がみられ、「中学・旧制高小卒まで」では35.1%であるが、「短大・工専・旧制高専卒以上」は56.3%となっている(表Ⅱ-2)。

表Ⅱ-1 主婦の年齢階層別就業状況

(%)

	計	不就業者	就業者								
			計	雇用者		その他					
				計	フル タイマー	パート タイマー	計	家庭 内職	けいこ 事教授 等	自営業	その他 不明
計	100.0 (2,641)	40.4	59.6	39.7	25.9	14.0	19.9	10.6	0.7	6.4	2.2
29歳以下	100.0 (652)	55.1	44.9	30.2	23.6	6.6	14.7	10.1	0.6	2.5	1.5
30～34歳	100.0 (444)	47.5	52.5	31.1	16.7	14.4	21.4	13.5	0.4	5.0	2.5
35～39歳	100.0 (440)	31.1	68.9	45.2	25.0	20.2	23.7	13.9	0.7	7.3	1.8
40～44歳	100.0 (440)	23.2	76.8	56.4	34.6	21.8	20.4	10.5	1.1	6.8	2.0
45～49歳	100.0 (310)	31.6	68.4	47.4	31.6	15.8	21.0	6.1	1.0	11.0	2.9
50歳以上	100.0 (355)	45.1	54.9	33.5	25.3	8.2	21.4	7.6	0.3	10.1	3.4

表Ⅱ-2 主婦の学歴別就業状況

(%)

	計	不就業者	就業者						
			計	雇用者	その他				
					計	家庭内職	けいこ 事教授 等	自営業	その他 不明
計	100.0 (2,461)	40.4	59.6	39.7	19.9	10.6	0.7	6.4	2.2
中学・旧制高 小卒まで	100.0 (1,486)	35.1	64.9	43.1	21.8	11.9	0.4	7.1	2.4
高校・旧制女学校卒	100.0 (1,044)	46.3	53.7	35.7	18.0	9.3	1.0	5.8	1.9
短大・工専・旧制高 専卒以上	100.0 (87)	56.3	43.7	28.7	15.0	5.8	3.5	2.3	3.4

又、夫の労働の種類別に主婦の就業状況をみると、夫が「現場作業者」のほうが、夫が「管理・事務・技術労働者」の場合よりも、主婦の就業率が高く、前者は63.5%であるが、後者は52.5%である。主婦が雇用者の場合も自営業の場合も夫が「現場作業者」の方が「管理・事務・技術労働者」よりも主婦の就業率が高い。一方、「家庭内職」、「けいこ事教授等」をしている主婦は、夫が「管理・事務・技術労働者」の方に多くなっている。

次に主婦の就業状況を夫の収入階層別にみると、夫の収入が低いほど妻の就業率が高くなっている。すなわち、夫の収入が「10万円未満」では主婦の就業率が62.9%、夫の収入が「20万円以上」では主婦の就業率は49.4%となっている。フルタイムの雇用者の場合は、夫の収入が低いほど主婦の就業率が高くなっているが、主婦がパートタイムの雇用者及び家庭内職の場合には、夫の収入と主婦の就業率との相関はみられない(表Ⅱ-3)。

表Ⅱ-3 夫の労働の種類別及び収入階層別主婦の就業状況

(%)

		計	主婦の就業状況										
			不 就 業 者	就業者									
				計	雇 用 者			そ の 他					
					計	フル タイム	パート タイム	計	家庭 内職	けいこ 事教授 等	自営業	その他 不明	
計		100.0 (2,641)	40.4	59.6	39.7	25.7	14.0	19.9	10.6	0.7	6.4	2.2	
夫の 職 種	管理・事務・ 技術労働者	100.0 (937)	47.5	52.5	32.6	20.9	11.7	19.9	11.3	1.3	5.3	2.0	
	現場作業者	100.0 (1,704)	36.5	63.5	43.6	28.3	15.3	19.9	10.2	0.4	7.0	2.3	
	夫の 収 入 階 級	10万円未満	100.0 (383)	37.1	62.9	42.5	31.3	11.2	20.4	6.5	—	10.2	3.7
	10万円以上 15万円未満	100.0 (1,250)	37.6	62.4	42.2	28.9	13.3	20.2	11.4	0.7	6.2	1.9	
	15万円以上 20万円未満	100.0 (754)	43.6	56.4	37.4	20.3	17.1	19.0	11.0	1.1	5.2	1.7	
	20万円以上	100.0 (249)	50.6	49.4	29.7	17.7	12.0	19.7	11.3	0.4	5.2	2.8	

(注) 夫の収入不明分5は表上省略

主婦の就業状況と母又は姑と同居の関係をみると、母又は姑が同居している場合に主婦が就業している者が多くなっている。さらにこれを就学前の子供の有無を考慮してみると、就学前の子供がいる場合に、「同居の母あり」が就業率61.8%で、「同居の母なし」の就業率39.0%より高くなっている。就学前の子供が1人もいない家庭においても同居の母がいる場合の方が主婦の就業率が高い(表Ⅱ

- 4)。

表Ⅱ-4 同居の母及び未就学児の有無別主婦の就業状況 (%)

		計	不就業者 (主婦)	就業者(主婦)		
				計	雇用者	その他
計		100.0 (2,641)	40.4	59.6	39.7	19.9
同居あり	未就学児あり	100.0 (343)	38.2	61.8	47.8	14.0
	" なし	100.0 (364)	23.6	76.4	54.4	22.0
同居なし	未就学児あり	100.0 (684)	61.0	39.0	16.7	22.3
	" なし	100.0 (1,247)	34.6	65.4	45.7	19.7

(注) 同居の母の有無不明分3は表上省略

主婦の就業状況を住居の種類別にみると、「持家」の場合に就業者の比率が最も高く64.8%で、次に、「公営・公団・公社の借家」が55.0%、「民営の借家等」が49.5%、「社宅等」が47.5%の順となっている。雇用者のうちフルタイムの者は、「持家」及び「民営の借家・借間」に住む者がその他の家に住む者よりも就業率が高く、雇用者のうちパートタイムの者と家庭内職の者では「公営・公団・公社の借家」に住む者がその他の家に住む者よりも就業率が高くなっている(表Ⅱ-5)。

表Ⅱ-5 住居の種類別主婦の就業状況 (%)

	計	不就業者	就業者							
			計	雇用者			家庭内職	けいこ 事教授 等	自営業	その他 不明
				計	フル タイム	パート タイム				
計	100.0 (2,641)	40.4	59.6	39.7	25.7	14.0	10.6	0.7	6.4	2.2
持家	100.0 (648)	35.4	64.6	42.5	29.5	13.0	10.2	0.7	9.0	2.2
社宅等	100.0 (265)	52.5	47.5	33.2	17.4	15.8	1.5	1.9	9.8	1.1
公営・公団 公社の借家	100.0 (240)	45.0	55.0	35.0	15.8	19.2	16.7	0.4	0.8	2.1
民営の借 家間	100.0 (420)	50.5	49.5	35.2	21.4	13.8	8.8	0.2	2.2	3.1

(注) 住居の種類不明分4は表上省略。

最後に主婦の就業と夫の労働災害の有無との関係を見ると、夫が「労働災害を受けた」場合の主婦の就業率は63.5%、夫が「災害を受けなかった」場合、主婦の就業率が57.1%である。「労働災害を受けた」夫のうち、休業1か月以内と1か月1日以上に分けてみると、夫が「現場作業員」の場合は主婦の就業率に差はほとんどないが(65.8%、65.9%)、夫が「管理・事務・技術労働者」の場合は休業日数が1か月以内では主婦の就業率は50.4%であり、1か月以上休業している者は57.1%の主婦が就業している(表Ⅱ-6)。

表Ⅱ-6 夫労働災害の有無別主婦の就業状況

(%)

		計	不就業者 (主婦)	就業者(主婦)			
				計	雇用者	その他	
計		100.0 (2,641)	40.4	59.6	39.7	19.9	
夫・労働災害なし		100.0	42.9	57.1	37.6	19.5	
夫・労働災害あり	計	100.0	36.5	63.5	42.9	20.6	
	休業1か月以内	管理・事務・技術労働者	100.0	49.6	50.4	34.2	16.2
		現場作業員	100.0	34.2	65.8	45.7	20.1
	休業1か月1日以上	管理・事務・技術労働者	100.0	42.9	57.1	38.1	19.0
		現場作業員	100.0	34.1	65.9	43.7	22.2

さて、主婦の就業状況とその収入の関係を見ると、就業者計で51年9月分の税込総収入額(賞与等特別支給分は除く)は、3万円以上6万円未満が最も多く32.7%で、次に6万円以上10万円未満が27.8%、すなわち3万円以上10万円未満の収入の者が60.5%を占めている。なお、10万円以上が9.7%、1万円未満が6.5%となっている。雇用者のうちフルタイムは6万円以上10万円未満の者の比率が49.6%で最も高く、雇用者のうちパートタイムの者は3万円以上6万円未満の比率が50.8%で最も高い。家庭内職では1万円以上2万円未満の比率が27.6%で最も高いが、2万円以上3万円未満が22.6%、3万円以上6万円未満が21.1%と1万円以上から6万円未満までの各収入階級に一

様を分布を示している。自営業の場合は収入1万円未満から20万円以上までの各収入階級別に分布しており分散度が最も高くなっている(表Ⅱ-7)。

表Ⅱ-7 主婦の就業状況別収入の状況

(%)

		計	1万円未満	1万円以上2万円未満	2万円以上3万円未満	3万円以上6万円未満	6万円以上10万円未満	10万円以上15万円未満	15万円以上20万円未満	20万円以上
就業者計		100.0 (1,574)	6.5	8.8	13.1	32.7	27.8	7.5	1.3	0.9
雇 用 者	計	100.0 (1,048)	1.1	3.0	9.9	37.6	36.5	9.5	1.2	0.4
	フルタイム	100.0 (678)	0.1	0.7	2.2	30.4	49.6	14.2	1.8	0.6
	パートタイム	100.0 (370)	3.0	7.0	24.1	50.8	13.0	1.1	—	—
家庭内職		100.0 (279)	21.1	27.6	22.6	21.1	5.0	1.1	0.4	—
けいこ事教授等		100.0 (18)	11.1	38.9	16.7	22.2	11.1	—	—	—
自営業		100.0 (170)	13.0	8.8	12.9	24.1	16.5	8.8	4.1	5.9
その他・不明		100.0 (59)	11.9	15.3	23.7	28.8	16.9	—	1.7	—

(注) 51年9月分税込総収入額、賞与等特別支給分は除く。従って雇用労働者でも働いた日数が少い等の理由で賃金が極端に少ない場合もまれにあり得る。なお、収入階級不明分22は表上省略

2 「職業資格等」の活用状況

収入を得ることに役立つ資格・免許・技能(以下「職業資格等」という)をもつ主婦は665人で、調査対象者総数の4分の1となっている。又、主婦の「職業資格等」の有無と就業率との相関はみられない(表Ⅱ-8)。

表Ⅱ-8 「職業資格等」の保有の有無別就業の有無

(%)

		計	不就業	就業
計		100.0 (2,641)	40.4	59.6
「職業資格等」の保有	なし	100.0 (1,971)	40.2	59.8
	あり	100.0 (665)	40.7	59.3

就業者の25.1%(395人)が「職業資格等」をもっているが、そのうち現在の仕事に活用している主婦は57.0%でこれは就業者総数の14.3%にあたる。雇業者で「職業資格等」を活用しているものは54.2%で、これをフルタイマーとパートタイマーに分けてみると前者の場合、活用しているもの60.0%、後者の場合、39.0%である。自営業で「職業資格等」を活用しているものは63.3%、「けいこ事教授等」では94.4%である(表Ⅱ-9)。

表Ⅱ-9 主婦の「職業資格等」の活用の有無

(%)

		計	活用あり	活用なし	
計		(395)100.0	(225) 57.0	(170) 43.0	
就業者中「職業資格等」の保有者	雇業者	計	(236)100.0	54.2	45.8
		フルタイマー	(176)100.0	60.0	40.0
		パートタイマー	(60)100.0	39.0	61.0
	家庭内職		(64)100.0	46.9	53.1
	けいこ事教授等		(18)100.0	94.4	5.6
	自営業		(49)100.0	63.3	36.7
	その他不明		(28)100.0	67.9	32.1

活用されている職業資格等の種目は、「和洋裁・編物・手芸等」が59人で最も多く、次に「タイプ・珠算・簿記・医療事務等」が55人、「自動車運転免許」が36人、「看護婦等」が28人等の順である(表Ⅱ-10)。

表Ⅱ-10 活用されている「職業資格等」の種目別人数

計 (注)	和洋裁 編物 手芸等	裁縫物 珠算 簿記 医療 事務等	タイプ 算記 簿記 事務等	自動車 運転 免許	看護婦 助産婦 保健婦	理容師 美容師	調理師 栄養士	茶道 花道 書道 音楽等	保母	学校 教師	電話 交換 手	衛生 管理 者 安全 管理者	玉掛 ガス 溶接	建築士
実数 (248) 224	59	55	36	28	20	14	10	8	7	4	4	2	1	

(注) 1人で二つ以上の職業資格等を活用している場合があるので計は実人員224人を上まわる。

Ⅲ 就業に関する主婦の意識

1 就業の理由

就業者に対し、就業の理由を次の設問を示し多答式で回答を求めた。（注、多答式とは設問に対する答を一つに限定せず、該当するものがあれば、それらのすべてを答えとする、すなわち答の重複を妨げない調査方法をいう。）

(1) 家計を助けるため

- イ 生活を支えるため
- ロ 住宅購入資金（月賦返還を含む）を得るため
- ハ 子供の教育資金を得るため
- ニ その他

(2) 現在適当な職業を持っているからやめたくない

(3) 自分自身の小遣がほしい

(4) 自分の能力を活かしたい

(5) 夫に依存しなくても生活できるようにしたい

(6) 生活に変化を持ち、家庭外で多くの人と会いたい

(7) その他

その結果は、「家計を助けるため」が 84.5% で最も多く、次が「現在適当な職業を持っているからやめたくない」16.0%、「自分自身の小遣いがほしい」15.3%、「生活に変化を持ち家庭外で多くの人と会いたい」12.8% の順である。

一方、不就業者中就業を希望する主婦は対象者総数の 30.0%（不就業者の 73.7%）であるが、これらの者に就業希望の理由について就業している主婦と同様の方法で行った質問に対しては、「家計を助けるため」と答えた者の比率が最も高く 71.1%、次に「生活に変化を持ち家庭外で多くの人と会いたい」23.5% が第 2 位、「自分自身の小遣いがほしい」18.7% が第 3 位と少し順序が入れかわっている。

ところで、「自分の能力を活かしたい」という理由を挙げる者は、就業者、就業希望者とも 7% 程度であり、「夫に依存しなくても生活できるようにしたい」

はさらに少く、就業者で4.7%、就業希望者で4.2%となっている(表Ⅱ-1)。

表Ⅱ-1 就業者及び就業希望者の就業の理由(多答)

(%)

	計	家計を助けるため					現在適当な職業を持っているからやめたくない	自分自身の小遣いが欲しい	自分の能力を活かしたい	夫に依存しなくても生活出来るようにしたい	生活に変化をもち家庭外で多くの人と会いたい	その他不明	
		計	生活を支えるため	住宅購入資金を得るため	子供の教育資金を得るため	その他不明							
計	1000 (1,574)	84.5	56.3	14.5	26.1	4.2	16.0	15.3	7.3	4.7	12.6	3.2	
就業者	計	100.0 (1,048)	88.3	60.0	16.3	27.6	3.0	20.2	12.9	6.3	4.5	16.1	1.4
	フルタイム	100.0 (678)	88.9	62.1	18.0	27.7	2.7	25.7	10.0	7.6	5.2	13.6	1.2
	パートタイマー	100.0 (370)	87.0	56.2	13.2	28.1	3.3	10.3	18.4	4.1	3.3	19.9	1.9
	家庭内職	100.0 (279)	81.7	49.1	15.4	25.1	5.8	5.0	25.4	6.8	3.2	4.3	3.6
	けいこ事教授等	100.0 (18)	38.9	22.2	-	22.2	5.6	22.2	22.2	50.0	5.6	33.3	5.6
自営業	100.0 (170)	75.3	53.5	7.1	20.0	7.1	9.4	11.2	6.5	7.7	6.5	12.3	
その他不明	100.0 (59)	71.2	42.4	5.6	24.1	11.2	11.1	22.2	18.5	6.8	7.4	5.0	
就業希望者	100.0 (286)	71.1	37.5	16.3	24.8	4.1	-	18.7	7.4	4.2	23.5	6.0	

雇用者はフルタイムもパートタイマーも「家計を助けるため」の比率が高く前者は89.1%後者は86.6%である。

又、フルタイムでは「現在適当な職業を持っているからやめたくない」が25.7%で目立っている。

家庭内職も「家計を助けるため」の比率が比較的高く81.7%、「自分自身の小遣いが欲しい」25.4%が次に多くなっている。

「けいこ事教授等」では、「自分の能力を活かしたい」50.0%、「家計を助けるため」38.9%、「生活に変化をもち家庭外で多くの人と会いたい」33.3%の順となっている(表Ⅱ-1)。

就業者を、34歳以下、35~44歳、45歳以上の三つの年齢階層に分けて就業の理由をみると、「家計を助けるため」の比率が高いのは35~44歳であ

り、その内訳では「子供の教育資金を得る」の占める比率が比較的高い。「自分の能力を活かしたい」と「生活に変化を持ち家庭外で多くの人と会いたい」は共に年齢階層が低いほど比率が高い。又、「自分自身のこづかいがほしい」は34歳以下に比較的多い。一方、「夫に依存しなくても生活できるようにしたい」は45歳以上で相対的に比率が高い(表Ⅱ-2)。

表Ⅱ-2 年齢階層別就業の理由(多答)

	計	家計を助けるため(多答)					現在適当な職業を持っているからやめたくない	自分自身の小遣いが欲しい	自分の能力を活かしたい	夫に依存しなくても生活出来るようにしたい	生活に変化をもも家庭外で多くの人と会いたい	その他不明
		計	生活を支えるため	住宅購入資金を得るため	子供の教育資金を得るため	その他不明						
就業者計	1000 (1,574)	84.2	56.5	14.4	25.9	4.0	16.0	15.3	7.4	4.6	12.8	3.1
34歳以下	1000 (526)	77.0	49.8	17.7	20.2	3.5	17.1	19.6	8.8	3.8	17.1	3.4
35歳~44歳	1000 (841)	89.1	58.4	13.4	34.3	3.1	15.0	11.1	7.0	3.7	12.6	1.9
45歳以上	1000 (407)	86.0	52.2	11.6	20.0	6.1	16.2	16.5	6.1	6.9	7.6	4.7

次に、就業者及び就業希望者の就業の理由を学歴別にみると、「家計を助けるため」はおおむね低学歴の場合に比率が高いが、「現在適当な職業をもっているからやめたくない」「自分の能力を生かしたい」、「夫に依存しなくても生活できるようにしたい」は高学歴になるほど比率が高い。とくに「自分の能力を生かしたい」では高卒以下と短大卒以上の差が大きい(表Ⅱ-3)。

表 Ⅱ - 3 学歴別就業の理由 (多答)

(%)

	計	家計を助けるため(多答)					現在適当な 職業を持って いるから やめたくない(※)	自分自身 の力量が 欲しい	自分の能 力を活か したい	夫に依存 しなくても 生活出 来よう にしたい	生活に適化 を持ち進路 が多くの 人と違った い	その他 不明
		計	生活を支 えるため	住宅購入 資金を得 るため	子供の教 育資金を 得るため	その他 不明						
就業者及び 就業希望者計	100.0 (2,360)	80.0	50.0	15.1	25.6	4.1	16.0	16.4	7.3	4.5	16.4	4.2
中学・高校卒まで	100.0 (1,342)	84.9	56.0	14.3	26.0	4.1	14.2	15.5	5.0	3.8	11.7	4.1
高校・旧制中学校卒	100.0 (934)	74.7	42.6	16.9	26.0	3.9	18.4	18.0	6.4	4.9	21.6	3.9
短大・工専・旧制 高専卒以上	100.0 (66)	52.2	29.9	7.5	11.9	6.0	31.6	14.9	41.8	14.9	35.8	7.5

(注) 学歴不明分18は表上省略

(※) 就業者の場合だけの選択枝であるから就業者を100として比率を出した。

2 就業希望者の不就業の理由

就業していない主婦のうち、73.7%が就業を希望しているが、このうち、「現在仕事をさがしている」は14.3%にすぎず、「とくに積極的に仕事をさがしていない」が多く74.4%である(残り6.2%は態度不明)。年齢階層が低いほど、就業希望者の比率が高く、34歳以下80.0%、35~44歳77.0%、45歳以上56.6%となっている。しかし「現在仕事をさがしている」ものの比率が最も多いのは35~44歳の層である(表Ⅱ-4)。

就業希望者の不就業の理由を、「自分や家庭の事情による」、「希望する適当な仕事が見つからない」に分けて尋ねたところ、「自分や家庭の事情による」が圧倒的に多い(80.5%)。とりわけ、「とくに現在積極的に仕事をさがしていない」者で「自分や家庭の事情による」を挙げるものの比率が高い(88.2%)。「現在仕事をさがしている」者では「自分や家庭の事情による」49.0%と「適当な仕事が見つからない」45.8%でほぼ半々である(表Ⅱ-5)。

表Ⅰ-4 不就業者の年齢階層別就業希望の有無

(%)

	計	就業希望なし	就業希望あり				
			計	現在仕事をさがしている	現在積極的に仕事をさがしていない	不明	
不 就 業 者	計	100.0 (1,067)	26.3	(100.0) 73.7	(19.4) 14.3	(74.4) 54.9	(6.2) 4.5
	34歳以下	100.0 (570)	20.0	(100.0) 80.0	(17.3) 13.9	(77.0) 61.6	(5.7) 4.5
	35歳～ 44歳	100.0 (239)	23.0	(100.0) 77.0	(23.4) 18.0	(70.6) 54.4	(6.0) 4.6
	45歳以上	100.0 (258)	43.4	(100.0) 56.6	(21.2) 12.0	(71.2) 40.3	(7.6) 4.3

表Ⅰ-5 就業希望者の不就業の理由

(%)

	計	自分や家庭の事情による	適当な仕事が見つからない	その他不明	
					計
就 業 希 望 者	現在仕事をさがしている	100.0 (153)	49.0	45.8	5.2
	現在積極的に仕事をさがしていない	100.0 (585)	88.2	10.6	1.2
	不明	100.0 (48)	87.5	8.3	4.2

Ⅳ 主婦の余暇活動の状況

1 けいこごと、スポーツ、奉仕活動等

余暇活動のうち、「けいこ事や趣味」、「スポーツ・運動」（なわとび・美容体操を含む）、「奉仕活動や団体活動」について、ふだんしているか、又は将来したいと思うかどうかを尋ねた。「けいこ事や趣味」をしている比率が21.5%で最も高く、次に「奉仕活動や団体活動」17.1%、「スポーツ・運動」15.4%の順となっている。現在していない場合に「将来したいと思う」の比率が最も高いのは「けいこ事や趣味」で、調査対象者総数の48.7%、次が「スポーツ・運動」同37.6%、「奉仕活動や団体活動」同28.5%の順となっている（表Ⅳ-1）。

表Ⅳ-1 主婦の余暇活動の実施状況

	計	している	して いない				不明
			計	将来 したい	別に将来 したくない	不明	
けいこ事や趣味	100.0 (2,641)	21.5	77.0	48.7	27.0	1.3	1.5
スポーツ・運動	100.0 (2,641)	15.4	82.5	37.6	43.5	1.4	2.1
奉仕活動や団体活動	100.0 (2,641)	17.1	80.6	28.5	50.4	1.7	2.3
「職業資格等」取得のための勉強等	100.0 (2,641)	4.4	93.4	34.5	57.4	1.5	2.2

2 「職業資格等」取得のための勉強等

「職業資格等」（収入を得ることを目的とする資格・免許・技能）を得るための勉強をしたり訓練を受けたりしているかという質問に対しては、「している」と答えたものが調査対象者総数の4.4%と少い。現在していないが「将来したいと思う」は調査対象者総数の34.5%となっている（表Ⅳ-1）。

勉強等をしている「職業資格等」の種目は「和洋裁・編物・手芸等」が最も多く、次に「茶・花・書道・音楽等」及び「理・美容師」、「タイプ・珠算・簿記・

医療事務等」……の順となっている。

これら「職業資格等」取得のため勉強等をしている者を、就業の有無別にみると、8対2の比で就業者の方に勉強等をしているものが多い(表Ⅳ-2)。

表Ⅳ-2 就業の有無別「職業資格等」取得のための勉強等をしている人数

		計	和洋編手 フラワ アート	裁裁物装 美容師	理容師 美容師	茶花書音	道道道楽	タイプ算記 簿医療事 務等	その他	不明
計	実数	116	33	17	17	9	15	25		
就業者	実数	93	27	12	15	4	15	20		
不就業者	実数	23	6	5	2	5	0	5		

「職業資格等」取得のための勉強等を希望しながら、現在は勉強や訓練をしていない主婦にその理由(多答)を次の項目から選んでもらった。

- (1) ひまがない
- (2) お金がかかる
- (3) 子供に手がかかる
- (4) ひとりでは心細い
- (5) どうしたらよいか方法がわからない
- (6) 夫の同意が得られない
- (7) 適当な場所や施設がない
- (8) 適切な指導者がいない
- (9) その他

その結果は、「ひまがない」46.4%、「子供に手がかかる」46.0%が最も多く、次に「お金がかかる」33.3%、「適当な場所や施設がない」20.1%、「どうしたらよいか方法がわからない」13.1%、「適切な指導者がいない」11.2%の順となっている。年齢階層別にみると、34歳以下で「子供に手がかかる」

の比率が高く63.6%、「ひとりでは心細い」というのが45歳以上で10.0%と若い層よりも比率が高い。又、「適当な場所や施設がない」が44歳以下で2割以上ある(表Ⅳ-3)。

表Ⅳ-3 年齢階層別「職業資格等」取得のための
勉強等が実施できない理由(多答)

(%)

	計	ひまがない	お金がかかる	子供に手がかかる	ひとりでは心細い	どうしたら良いか方法がわからない	夫の同意が得られない	適当な場所や施設がない	適切な指導者がいない	その他不明
計	100.0 (910)	46.4	33.3	46.0	5.5	13.1	4.0	20.1	11.2	6.3
34歳以下	100.0 (525)	45.9	32.2	63.6	4.6	11.1	4.4	20.4	9.0	4.7
35歳~ 44歳	100.0 (285)	46.7	36.5	29.1	5.6	14.0	3.2	22.1	14.7	6.7
45歳以上	100.0 (100)	48.0	30.0	2.0	10.0	21.0	4.0	13.0	13.0	13.0

これらの人々がどのような「職業資格等」を希望しているかという点、最も多いのは「和洋裁・編物・手芸等」19.9%で、次に「自動車運転免許」12.1%、「タイプ・珠算・簿記・医療事務等」及び「調理師・栄養士」各9.3%の順である。なお「不明」が40.9%あることが注目される(表Ⅳ-4)。

表Ⅳ-4 就業の有無別「職業資格等」取得のための
勉強等の希望状況(多答)

	計	和洋裁 編物 手芸 フラット	裁縫 物芸 フラット	自動車 運転 免許	タイプ 珠算 簿記 医療 事務	調理師 栄養士	茶花 書音	道 道 道 楽	理容師 美容師	保 母	看護婦 助産婦 保健婦	玉 ガ 溶	掛 ス 接	その他	不明
計	100.0 (910)	19.9	12.1	11.4	7.4	5.0	3.0	2.5	1.0	0.4	0.5	40.9			
就業者	100.0 (483)	18.2	13.9	9.3	9.3	4.8	3.5	3.1	1.4	0.6	0.4	39.3			
不就業者	100.0 (427)	21.8	10.1	13.8	5.2	5.2	2.3	1.9	0.5	0.2	0.7	42.6			

すべての対象者に対し、「収入を得ることを目的として、資格・免許をとったり、技能を持つための勉強をする場合に次のどの方法でやりたいと思いますか」と尋ねた。

- (1) 独学や通信教育など自宅でできる方法
- (2) 専門の学校や訓練施設に通う（比較的長期の通学）
- (3) 講座、講習を受ける（短期の受講）
- (4) その他

その結果は、「講座・講習を受ける」が最も多く42.1%，次に、「独学や通信教育など自宅でできる方法」31.8%，「専門の学校や訓練施設に通う」14.3%の順となっている。年齢階層別にみると、年齢層が低いほど「専門の学校や訓練施設に通う」の比率が高いのが目立つ（表Ⅳ-5）。

表Ⅳ-5 年齢階層別「職業資格等」取得のための勉強方法

	計	独学や通信教育など自宅でできる方法	専門の学校や訓練施設に通う	講座・講習を受ける	その他
計	1000 (2,641)	31.8	14.3	42.1	2.2
34歳以下	1000 (1,096)	33.6	20.4	41.4	0.9
35歳～ 44歳	1000 (880)	29.2	11.6	46.0	2.6
45歳以上	1000 (665)	32.3	7.7	38.1	3.9

なお、「職業資格等」の取得を将来希望している者の希望種目別勉強方法をみると、「和洋裁・編物・手芸等」，「茶・花・書道・音楽等」，「タイプ・珠算・簿記・医療事務等」は大体同じ傾向で、「講座・講習を受ける」が最も多く、次に「独学や通信教育等自宅でできる方法」，「専門の学校や訓練施設に通う」の順で、各方法間の比率の差は余り大きくない（表Ⅳ-6）。

表Ⅳ-6 「職業資格等」の取得希望者の希望種目別勉強方法

(%)

	計	独学や通信 教育等自宅 のでできる方 法	専門の学校 や訓練施設 に通う	講座、講習 習を受ける	その他
取得希望者 計	100.0 (910)	28.7	14.3	42.6	22
和・洋裁、編物、手 芸、フラワーアート	100.0 (181)	28.2	25.9	43.6	2.3
自動車運転免許	100.0 (110)	10.9	45.5	43.6	-
タイブ・珠算・ 簿記・医療事務	100.0 (104)	33.7	24.0	41.3	1.0
調理師・栄養士	100.0 (67)	22.4	16.4	55.2	6.0
茶・花・書道・音楽	100.0 (45)	31.1	28.9	35.6	4.4
理容師・美容師	100.0 (27)	18.5	44.4	37.1	-
保母	100.0 (23)	74.0	13.0	13.0	-
看護婦・助産婦・ 保健婦	100.0 (9)	-	88.9	11.1	-
その他	100.0 (9)	22.2	11.1	55.6	11.1
不明	100.0 (379)	35.9	13.7	44.3	6.1

V 自立に関する主婦の意識

1 夫が事故ある場合の家計維持手段

勤労者家庭の主婦の自立に関する意識を知るため、「万一あなたの夫が思いがけないことで収入が全くなくなったとしたら、家計維持のためあなたはどうしますか」と質問したところ、「どんなことをしてでも働く」と答えたものが多く、42.7%で、次が「今の自分の職業の収入で何とかやっていく」24.6%、「自分が持っている資格・免許・技能を生かして働く」9.2%となっており、以上の三つの回答を合わせると76.5%が働くことを先ず第一に考えている。若い年齢層ほど「働く」という者が多い。「どうしたらよいか分らない」という者が6.9%いる。「保険・年金・財産で何とかやっていく」と答えた者は6.1%で年齢が高くなるに従ってその割合が多く、55歳以上では28.6%となっている(表V-1)。

表V-1 年齢階層別夫事故ある場合の家計維持手段(第1位のみ)

	(%)											
	計	第1位記入者										順位を記入しなかった者
計		今の自分の職業の収入で何とかやっている	自分の持っている資格・免許・技能を生かして働く	どんなことをしてでも働く	保険・年金・財産で何とかやっていく	自分や夫の来歴や親せきに頼る	子供に頼る	その他の方法	どうしたらよいか分らない			
計	1000 (2641)	949 (2505)	246	92	427	61	16	32	0.5	6.9	5.0 (130)	0.2 (6)
34歳以下	1000 (1096)	953 (1055)	181	146	493	30	24	-	0.6	8.3	3.6	0.2
35~44歳	1000 (880)	847 (833)	306	76	435	36	1.6	0.2	0.6	7.1	5.1	0.2
45~54歳	1000 (553)	931 (615)	302	31	324	11.6	0.2	10.5	0.4	4.9	6.7	0.2
55歳以上	1000 (112)	911 (102)	152	0.9	223	28.6	-	22.3	-	1.8	8.0	0.9
				384								

なお、「職業資格等」の保有者で、現在それを活用していないが夫が事故ある場合に「活かして働く」という者は6割いる。「活かして働く」と答えた者について、その「職業資格等」をみると、「タイプ・珠算・簿記・医療事務等」が第1位、「和裁・洋裁・編物・手芸等」が第2位、「自動車運転免許」が第3位、「茶道・華道・書道・音楽等」が第4位、「理容師・美容師」が第5位である。

表V-2 夫事故ある場合、主婦が活かして働こうとする「職業資格等」の種目別調査対象数

	夫事故ある場合に活かして働く者
計	264
タイプ・珠算・簿記・医療事務等	91
和裁・洋裁・編物・手芸等	73
自動車運転免許	43
茶道・華道・書道・音楽等	26
理容師・美容師	18
調理師・栄養士	17
保母	16
看護婦・助産婦・保健婦	13
学校教師	12
電話交換手	4
衛生管理者・安全管理者	3
職業訓練指導員	1

2 夫定年退職後の家計維持手段

「夫が会社を定年退職するとき（又は定年制はないが高齢で退職するとき）家計維持をどのようにする計画ですか」と質問し、下記の項目の中から一つだけ選んでもらうこととした。

- (1) 年金や保険，退職金・財産等で生活する。
- (2) 夫に働けるだけ働いてもらう。
- (3) 今の自分の職業を続けて生活を維持する。
- (4) 夫も自分も働いて生活を維持する。
- (5) その頃に向けて計画的に自分が職業を持ち夫に代る。
- (6) 子供に頼る
- (7) その他の方法

(8) あまり考えたことがない。

その結果は、「夫も自分も働いて生活を維持する」という者が多く43.9%であるが、「あまり考えたことがない」と答えた者が、次に多く17.9%を占めている。第3位は「夫に働けるだけ働いてもらう」、第4位は「年金や保険、退職金、財産などで生活する」となっており「子供に頼る」は3.5%で第5位である。

年齢階層別にみると、「夫も自分も働いて生活を維持する」は35歳～44歳以下に多く「夫に働けるだけ働いてもらう」、「年金や保険、退職金、財産などで生活する」は45歳以上に多い。「あまり考えたことがない」と答えた者は34歳以下に多くなっており、年齢階層によって定年退職後の家計維持手段の考え方に相異がみられる(表V-3)。

表V-3 年齢階層別夫定年退職後の家計維持手段

(%)

	計	年金や保険、退職金、財産などで生活する	夫に働けるだけ働いてもらう	今の自分の職業を続けて生活を維持する	夫も自分も働いて生活を維持する	その頃に向けて計画的に自分が職業を持ち夫に代る	子供に頼る	その他の方法	あまり考えたことがない
計	100.0 (2,641)	12.4	14.9	3.2	43.9	2.7	3.4	1.3	18.2
34歳以下	100.0 (1,096)	9.1	9.8	1.9	42.3	4.3	1.2	1.8	29.6
35歳～ 44歳	100.0 (880)	10.8	16.4	4.2	50.0	2.3	2.5	1.2	12.6
45歳以上	100.0 (665)	20.0	21.5	3.9	38.5	0.6	8.4	0.4	6.7

なお、「子供が成長して1人立ちしている場合(子供がない場合を含む)、もし、夫より長生きをしたらあなたはひとりぐらしをしたいと思いませんか」と尋ねたところ、結果は次のようであった。

- | | |
|---------------------|-------|
| (1) ひとりぐらしをしたい | 12.6% |
| (2) 子供と同居したい | 58.9 |
| (3) 老人ホーム等の施設にはいりたい | 48.5 |
| (4) その他、わからない | 23.6 |

これらの老後の生き方と、夫が定年退職後の家計維持手段との関連をみると「子供と同居したい」と答えた場合に、「自ら職業を持ち働いて生活を維持する」という者が49.9%で、「子供に頼る」という者が5.3%となっている。これに対し「ひとり暮らしをしたい」と答えた場合には、「自ら職業を持ち働いて生活を維持する」という者が58.6%で「子供に頼る」者は0.6%となっている(表V-4)。

表V-4 老後の生活方法別夫の定年退職後の家計維持手段

(%)

	計	年金や保険金・退職金・財産などで生活する	夫に働けるだけ働いてもらう	自ら職業をもち働いて生活を維持するもの				子供に頼る	その他の方法	あまり考えたことがない
				計	今の自分の職業をつづけて生活を維持する	夫も自分も働いて生活を維持する	そのころに向けて計画的に自分が職業をもち夫に代る			
計	1000 (2641)	12.4	14.9	49.8	3.2	43.9	2.7	3.4	1.3	18.2
ひとり暮らしをしたい	1000 (333)	12.0	15.0	58.6	4.8	48.7	5.1	0.6	1.8	12.0
子供と同居したい	1000 (1556)	13.4	16.6	49.9	3.3	44.6	2.0	5.3	1.1	13.6
老人ホーム等の施設に入りたい	1000 (128)	14.8	15.6	52.4	1.6	46.1	4.7	0.8	0.8	15.6
その他不明	1000 (624)	9.8	10.4	44.4	2.4	39.3	2.7	0.8	1.6	32.4

VI 生活に関する主婦の意識

現在の生活に満足しているかどうかを最後に尋ねた。「大体満足している」が64.6%と最も多く、次に「どちらともいえない」24.5%、「不満がある」10.6%の順である。年齢階層別にみると若い層に「不満がある」という者が多い(表VI-1)。

表VI-1 年齢階層別現在の生活意識

	計	大体満足している	不満がある	どちらともいえない	不明
計	100.0 (2,641)	64.6	10.6	24.5	0.3
34歳以下	100.0 (1,096)	62.0	12.1	25.5	0.4
35歳～	100.0 (880)	66.1	10.6	23.0	0.3
44歳	100.0 (665)	66.6	8.3	24.8	0.3

現在の生活に「不満がある」者及び「どちらともいえない」者合わせて927人に対し、どんな不満や悩みがあるかを次の事項のなかから選んでもらった。

- (1) 趣味等、したいことがあるができない
- (2) ひまがあるので何かをしたいが何をしたいかわからない
- (3) 働くことや働いていることに関してなやみがある
- (4) 友だちがいない
- (5) 家族が自分の期待通りにならない
- (6) 家族が家事・育児に協力してくれない
- (7) 夫が相談相手になってくれない
- (8) 生活にハリがない
- (9) その他

結果は、「趣味等したいことがあるができない」が39.6%と最も多く、次に「働くことや働いていることに関して悩みがある」19.7%、「家族が自分の期

待通りにならない」18.7%、「生活にハリがない」18.2%、「夫が相談相手になってくれない」10.5%の順である。年齢階層別にみると、若い年齢層ほど「趣味等したいことができない」が多く、「働くことや働いていることに関してなやみがある」という者は35歳～44歳の層に多い(表Ⅵ-2)。

表Ⅵ-2 年齢階層別不満等の内容(多答)

(多)

	計	趣味等したいことができない	ひまがあるので何かをしたいが何をしたいかわからない	働くことや働いていることに関してなやみがある	友だちがいな	家族が自分の期待通りにくれない	家族が家事・育児に協力してくれない	夫が相談相手になってくれない	生活にハリがない	その他	不明
現在の生活に「不満がある」「どちらともいえない」計	100.0 (927)	39.6	7.9	19.7	6.0	18.7	7.2	10.5	18.2	22.3	3.1
34歳以下	100.0 (412)	45.9	7.9	16.0	7.3	17.2	9.0	9.5	20.6	23.1	1.5
35歳～44歳	100.0 (293)	38.0	4.4	25.4	6.1	19.0	6.1	11.6	18.0	19.7	3.7
45歳以上	100.0 (220)	30.0	13.2	19.1	3.6	20.9	5.5	10.9	14.1	24.6	5.9

VII 附 表

第1表 学歴及び年齢階級別調査対象者の構成

(%)

	計	24歳 以下	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55歳 以上
計	1000 (2,641)	4.2	20.5	16.8	16.7	16.7	11.7	9.2	4.2
中学・高小卒 まで	1000 (1,486)	2.2	11.6	14.3	17.6	20.5	15.1	12.6	6.1
高校・旧制女学校卒	1000 (1,044)	6.6	31.0	20.3	16.1	12.1	7.7	4.6	1.6
旧制高専卒 短大・高専	1000 (75)	10.7	49.3	16.0	8.0	10.7	2.7	1.3	1.3
大学卒以上	1000 (12)	8.3	58.3	16.7	16.7	—	—	—	—
不明	1000 (24)	—	8.3	20.8	8.3	8.3	12.5	29.2	12.5

第2表 夫の収入階級別及び夫の労働の種類別並
びに夫の職場の企業規模別調査対象者の構成

(%)

		計	30～ 99人	100～ 299人	300～ 499人	500人～
夫の 収入 階級	計	1000 (2,641)	32.0	34.0	8.5	25.5
	15万円未満	1000 (1,633)	36.5	35.0	8.1	20.3
	15～20万円未満	1000 (754)	26.0	33.4	8.8	31.8
	20～25万円未満	1000 (203)	20.2	27.1	12.3	40.4
	25万円以上	1000 (46)	21.7	37.0	2.2	39.1
	不明	1000 (5)	20.0	40.0	—	40.0
夫の 種 労働類	管理・事務・技術労働者	1000 (937)	26.6	36.9	9.5	27.0
	現場作業者	1000 (1,704)	34.9	32.3	7.9	24.9

第3表 年齢階級及び子供の有無別調査対象者の構成

(%)

	計	子供なし	子 供 あ り				
			計	子供1人	2人	3人	4人以上
計	100.0 (2,641)	6.4	93.6	21.9	49.7	16.5	5.4
24歳以下	100.0 (110)	28.2	71.8	57.3	14.5	—	—
25歳～29歳	100.0 (542)	10.3	89.7	38.6	44.8	5.4	0.9
30歳～34歳	100.0 (444)	4.7	95.3	14.9	61.5	16.9	2.0
35歳～39歳	100.0 (440)	3.0	97.0	17.4	60.0	16.6	3.0
40歳～44歳	100.0 (440)	4.1	95.9	14.6	56.5	19.7	4.6
45歳～49歳	100.0 (310)	3.9	96.1	16.8	47.7	22.6	9.0
50歳～54歳	100.0 (243)	3.3	96.7	15.2	37.0	29.3	15.2
55歳以上	100.0 (112)	8.9	91.1	9.8	26.8	27.7	26.8

(注) 子供の数不明分2は表上省略

第4表 夫の健康状態別主婦の就業状況

(%)

	計	不就業者	就 業 者							
			計	雇 用 者			家庭内職	けいこ 事教授 等	自営業	その他 不明
				計	フル タイム	パート タイム				
計	100.0 (2,641)	40.4	59.6	39.7	25.7	14.0	10.6	0.7	6.4	2.2
健康	100.0 (1,957)	40.6	59.4	39.7	25.8	13.9	10.3	0.7	6.7	2.0
あまり健康でない	100.0 (534)	42.1	57.9	39.5	26.3	13.2	9.7	0.6	5.1	3.0
持病があるなど不健康	100.0 (149)	32.2	67.8	39.6	22.1	17.5	16.1	1.3	7.4	3.4

第5表 夫の労働災害の有無別主婦の就業状況

(%)

		計	不 就 業 者 (主婦)	就 業 者 (主 婦)							
				計	雇 用 者			家 庭 内 職	けいこ 事 教 授 等	自 営 業	そ の 他 不 明
					計	フル タ イ マ ー	パ ー ト タ イ マ ー				
計		1000	404	59.6	39.7	25.7	14.0	10.6	0.7	6.4	2.2
労働災害なし		1000	42.9	57.1	37.6	24.6	13.0	10.9	0.9	5.6	2.1
夫の労働災害の有無	計	1000	36.5	63.5	42.9	27.3	15.6	10.0	0.4	7.8	2.4
	7日以内	1000	40.0	60.0	41.0	30.0	11.0	8.0	—	8.0	3.0
	8日～1ヵ月	1000	36.8	63.2	43.8	28.1	15.7	9.4	0.2	7.8	2.0
	1ヵ月1日～6ヵ月	1000	35.8	64.2	43.9	26.6	17.3	11.2	0.5	6.3	2.3
	6ヵ月1日以上	1000	35.4	64.6	35.4	23.1	12.3	9.2	1.5	12.3	6.2
	不明	1000	28.6	71.4	35.7	21.4	14.3	14.3	—	21.4	—

第6表 同居の母の有無及び未就学児の有無別主婦の就業状況

(%)

		計	不 就 業 者	就 業 者							
				計	雇 用 者			家 庭 内 職	けいこ 事 教 授 等	自 営 業	そ の 他 不 明
					計	フル タ イ マ ー	パ ー ト タ イ マ ー				
計		1000 (2,641)	404	59.6	39.7	25.7	14.0	10.6	0.7	6.4	2.2
同居の母あり	計	1000 (707)	30.7	69.3	51.2	40.0	11.2	7.2	0.1	9.1	1.7
	未就学児あり	1000 (343)	38.2	61.8	47.8	40.8	7.0	6.7	—	5.5	1.8
	未就学児なし	1000 (364)	23.6	76.4	54.4	39.3	15.1	7.7	0.3	12.4	1.6
同居の母なし	計	1000 (1,931)	43.9	56.1	35.5	20.5	15.0	11.8	0.9	5.5	2.4
	未就学児あり	1000 (684)	61.0	39.0	16.7	8.3	8.3	16.8	0.7	2.9	1.9
	未就学児なし	1000 (247)	34.6	65.4	45.7	19.0	26.7	9.1	1.0	6.9	2.7

第7表 就業状況別就業の理由（多答）

(%)

	計	家計を助けるため（多答）					現在適 当を職 業を持 つてい るから やめた くない	自分自 身の小 遣いが 欲しい	自分 の能力 を活か したい	夫に依 存しな くても 生活出 来よう にしたい	生活に 変化を もち家 庭外で 多くの 人と会 いたい	その他 不明	
		計	生活を 支える ため	住宅購 入資金 を得る ため	子供の 教育資 金を得 るため	その他 不明							
就業者及び 就業希望者	100.0 (2360)	80.0	50.0	15.1	25.6	4.2	—	16.4	7.3	4.5	16.4	4.2	
就業希望者	100.0 (786)	71.1	37.5	16.3	24.8	4.1	—	18.7	7.4	4.2	23.6	6.0	
	計	100.0 (1574)	84.5	56.3	14.5	26.1	4.2	16.0	15.3	7.3	4.7	12.8	3.2
就 業 者	計	100.0 (1048)	88.3	60.0	16.3	27.6	3.0	20.2	12.9	6.3	4.5	16.1	1.4
	フルタイム	100.0 (678)	88.9	62.1	18.0	27.7	2.7	25.7	10.0	7.6	5.2	13.6	1.2
	パートタイム	100.0 (370)	87.0	56.2	13.2	28.1	3.3	10.3	18.4	4.1	3.3	19.9	1.9
	不明	100.0 (11)	91.0	54.5	27.2	—	—	36.4	9.1	—	9.1	—	—
者	家庭内職	100.0 (279)	81.7	49.1	15.4	25.1	5.3	5.0	25.4	6.8	3.2	4.3	3.6
	けいこ事教授等	100.0 (18)	38.9	22.2	—	22.2	5.6	22.2	22.2	50.0	5.6	33.3	5.6
	自営業	100.0 (170)	75.3	53.5	7.1	20.0	7.1	9.4	11.2	6.5	7.7	6.5	12.3
	その他・不明	100.0 (59)	71.2	42.4	5.6	24.1	11.2	11.1	22.2	18.5	6.8	7.4	5.0

第8表 就業者及び就業希望者の年齢階層別就業の理由（多答）

(%)

	計	家計を助けるため					現在適 当な職 業をも っている からや めたい くない	自分自 身の遺 いがか れたい	自分自 身の能 力をか しけれ ない	夫に依 存しな くても 生活出 来よう にしたい	生活に 変化を もち家 庭外で 多くの 人と会 いたい	その他 不明	
		計	生活を 支える ため	住宅購 入資金 を得る ため	子供の 教育資 金を得 るため	その他 不明							
就業 希望者	計	100.0 (2360)	80.0	50.0	15.1	25.6	4.1	-	16.4	7.3	4.5	16.4	4.2
	34歳以下	100.0 (982)	74.0	43.2	18.8	21.6	3.9	-	20.0	8.4	4.2	22.4	4.0
	35歳～44歳	100.0 (825)	85.8	52.9	13.7	35.2	2.9	-	12.0	7.2	3.6	13.7	2.5
	45歳以上	100.0 (553)	82.1	58.1	10.7	18.6	6.3	-	16.8	5.8	6.5	9.8	6.9
就 業 者	計	100.0 (1574)	84.2	56.5	14.4	25.9	4.0	16.0	15.3	7.4	4.6	12.8	3.1
	34歳以下	100.0 (526)	77.0	49.8	17.7	20.2	3.5	17.1	19.6	8.8	3.8	17.1	3.4
	35歳～44歳	100.0 (641)	89.1	58.4	13.4	34.3	3.1	15.0	11.1	7.0	3.7	12.6	1.9
	45歳以上	100.0 (407)	86.0	62.2	11.6	20.0	6.1	16.2	16.5	6.1	6.9	7.6	
就 業 希 望 者	計	100.0 (786)	71.6	37.2	16.7	25.2	4.3	-	18.7	7.3	4.5	23.5	6.3
	34歳以下	100.0 (456)	70.6	35.5	20.2	23.3	4.4	-	20.4	7.9	4.6	28.5	4.8
	35歳～44歳	100.0 (184)	74.5	33.7	14.7	38.0	2.2	-	15.2	7.6	3.3	17.4	4.3
	45歳以上	100.0 (146)	71.2	46.6	8.2	15.1	6.9	-	17.8	4.8	5.5	15.8	13.0

第9表 夫の健康状態別、労働災害の有無別主婦の就業の理由

(%)

	計	家計を助けるため(多答)					現在適当な職を求めているがみつからない	自身づかいが難しい	自分の能力を生かしたい	夫に生きていくために生活したい	依存も多し生活したい	生活に余裕がない	その他不明
		計	生活を支えるため	住宅購入資金を得るため	子供の教育資金を得るため	その他不明							
就業者及び就業希望者計	100.0 (2360)	80.0	50.0	15.1	25.6	3.2	16.0	16.4	7.3	4.5	16.4	4.2	
夫の健康状態	健康である	100.0 (1737)	78.1	47.3	15.7	25.3	3.8	16.9	16.7	7.7	4.4	4.1	
	あまり健康でない	100.0 (487)	84.8	56.9	14.4	25.7	4.9	14.6	16.6	4.7	4.9	4.3	
	持病があるなど不健康である	100.0 (135)	88.1	60.0	11.1	29.6	5.1	10.9	12.6	12.6	4.4	3.7	
夫の労働災害の有無	労働災害なし	100.0 (1435)	78.5	46.6	16.0	25.9	3.9	16.9	15.2	7.5	4.0	4.2	
	労働災害あり	100.0 (925)	82.4	55.5	13.8	25.2	4.6	14.8	18.4	7.1	5.4	4.2	

※ 就業者の場合だけの選択であるから就業者を100として構成比を表わした。

第10表 夫の収入階層別夫の労働の種類別主婦の就業希望の有無及び不就業の理由

(%)

	計	就業希望なし	就業希望あり											
			計	現在仕事をさがしている					現在積極的に仕事をさがしていない					不明
				不就業の理由					不就業の理由					
				計	自分や家庭の事情による	適当な仕事が見つからない	その他不明	計	自分や家庭の事情による	適当な仕事が見つからない	その他不明			
不就業者計	100.0 (1067)	26.3	73.7	14.3	7.0	6.5	0.8	54.9	48.4	5.8	0.7	4.5		
夫の収入階層	15万円未満	100.0 (615)	25.2	74.8	15.6	8.8	6.0	0.8	54.2	49.0	4.4	0.8	5.0	
	15万円～20万円未満	100.0 (329)	27.7	72.3	11.9	4.0	7.0	0.9	57.1	49.5	7.0	0.6	3.3	
	20万円～25万円未満	100.0 (95)	27.4	72.6	17.9	7.4	10.5	—	51.6	42.1	9.5	—	3.1	
	25万円以上	100.0 (28)	32.1	67.9	3.6	3.6	—	—	53.6	42.9	10.7	—	10.7	
	夫の労働種類	管理・事務・技術労働者	100.0 (445)	23.6	76.4	12.4	5.4	6.3	0.7	59.1	53.5	4.7	0.9	4.9
現場作業者		100.0 (622)	28.3	71.7	15.8	8.2	6.8	0.8	51.8	44.7	6.6	0.5	4.1	

第11表 学歴別年齢階層別余暇活動の状況

(%)

	計	けいこ事や趣味						スポーツ・運動						
		している	していない				不明	している	していない				不明	
			計	将来 したい	別に 来した くない	不明			計	将来 したい	別に 来した くない	不明		
計	1000 (2641)	21.5	77.0	48.7	27.0	1.3	1.5	15.4	82.5	37.6	43.5	1.4	2.1	
学歴	中学・高小 卒まで	100.0 (1486)	16.8	81.3	44.0	35.5	1.8	1.9	13.2	84.2	31.3	51.0	1.9	2.6
	高校・旧制 女学校卒	100.0 (1044)	26.8	72.3	55.2	16.5	0.6	0.9	18.2	80.6	44.9	34.8	0.7	1.2
	短大卒以上	100.0 (87)	36.8	62.1	52.9	9.2	—	1.1	18.4	79.3	60.9	18.4	—	2.3
	不明	100.0 (24)	25.0	66.7	33.4	25.0	8.3	8.3	16.7	75.0	20.8	50.0	4.2	8.3
年齢	34歳以下	100.0 (1096)	23.0	76.0	57.9	16.9	1.2	1.0	17.9	80.7	51.0	29.0	0.7	1.4
	35歳～ 44歳	100.0 (880)	22.2	76.1	48.0	26.4	1.7	1.7	17.1	81.0	34.7	44.2	2.1	1.9
	45歳以上	100.0 (665)	18.2	79.7	34.1	44.5	1.1	2.1	9.2	87.4	19.1	66.5	1.8	3.4

	計	奉仕活動や団体活動					「職業資格等」取得のための勉強等						
		している	していない				不明	している	していない				不明
			計	将来 したい	別に 来した くない	不明			計	将来 したい	別に 来した くない	不明	
計	17.1	80.6	28.5	50.4	1.7	2.3	4.4	93.4	34.5	57.4	1.5	2.2	
学歴	中学・高小 卒まで	17.8	79.4	24.8	52.4	2.2	2.8	3.1	94.8	28.9	63.8	2.1	2.1
	高校・旧制 女学校卒	16.6	82.0	33.4	47.3	1.3	1.4	5.8	92.5	42.0	49.5	1.0	1.7
	短大卒以上	11.5	86.2	36.8	49.4	—	2.3	10.4	85.0	42.5	42.5	—	4.6
	不明	12.5	75.0	12.5	58.3	4.2	12.5	—	79.2	20.8	58.4	—	20.8
年齢	34歳以下	13.4	85.0	32.8	50.7	1.5	1.6	3.5	93.8	47.9	45.9	—	2.7
	35歳～ 44歳	21.4	76.3	28.9	45.2	2.2	2.3	6.4	92.2	32.4	56.0	3.8	1.4
	45歳以上	17.4	79.3	21.1	56.5	1.7	3.3	3.3	94.4	15.0	78.2	1.2	2.3

第12表 学歴別・年齢階層別「職業資格等」取得のための勉強方法

(%)

		計	独学や通信教育など自宅で行える方法	専門の学校や訓練施設に通う	講座・講習を受ける	その他	不明
計		100.0 (2,641)	31.8	14.3	42.1	2.2	9.6
学歴	中学・高小卒まで	100.0 (1,486)	31.9	11.8	40.2	2.7	13.4
	高校・旧制女学校卒	100.0 (1,044)	32.2	16.9	45.0	1.6	4.3
	短大卒以上	100.0 (87)	26.5	28.7	39.1	2.3	3.4
	不明	100.0 (24)	29.2	4.2	45.8	—	20.8
	34歳以下	100.0 (1,096)	33.6	20.4	41.4	0.9	3.7
35歳～44歳	100.0 (880)	29.2	11.6	46.0	2.6	10.6	
45歳以上	100.0 (665)	32.3	7.7	38.1	3.9	18.0	

第13表 主婦の学歴別夫事故ある場合の家計維持手段

(%)

		計	第1位記入者								順位不明	無回答	
			計	今の職種の収入とかやつく	自分が持っている資格・技能を生かして働く	どんなことをしても働く	保険・年金・財産で何とかやっていく	自分や実家や親戚に頼る	子供に頼る	その他の方法			不明
計		100.0 (2,541)	94.9 (2,505)	24.6	9.2	42.7	6.1	1.6	3.2	0.5	6.9	5.0	0.2
主婦の学歴	中学・高小卒まで	100.0 (1,486)	95.1 (1,413)	24.9	5.0	43.5	7.4	1.4	5.1	0.7	7.1	4.6	0.3
	高校・旧制女学校卒	100.0 (1,044)	94.8 (990)	24.4	12.7	43.7	4.1	1.7	0.9	0.3	7.0	5.2	—
	短大卒以上	100.0 (87)	94.3 (82)	24.1	39.1	17.2	6.9	2.3	—	—	4.6	4.6	1.2
	不明	100.0 (24)	83.3 (20)	20.8	12.5	37.5	8.3	—	4.2	—	—	12.5	4.2

第14表 夫の収入階級・労働の種類別夫の定年退職後の家計維持手段

(%)

		計	年金や保険・退職金・財産などで生活する	夫に働けるだけ働いてもらう	今の自分の職業をつづけて生活を維持する	夫も自分も働いて生活を維持する	そのころに向けて計画的に自分が職業をもち夫に代る	子供に頼る	その他の方法	あまり考えたがない
計		1000 (2641)	12.4	14.9	3.2	43.9	2.7	3.4	1.3	18.2
夫の収入階級	15万円未満	1000 (1,633)	11.5	15.2	3.2	44.3	2.7	3.7	1.3	17.9
	15~20万円未満	1000 (754)	12.1	14.2	2.7	45.6	2.1	2.9	1.3	19.1
	20~25万円未満	1000 (203)	19.7	14.3	4.9	36.0	4.4	3.0	1.0	16.7
	25万円以上	1000 (46)	21.7	19.6	—	34.8	4.4	4.4	—	15.1
(注) 夫の収入階級不明分5は表上省略										
夫の労働種類	管理・事務・技術労働者	1000 (937)	13.1	14.6	2.9	43.4	2.9	2.0	1.4	19.7
	現場作業者	1000 (1,704)	12.0	15.1	3.3	44.2	2.6	4.2	1.2	17.4

第15表 学歴別主婦の現在の生活意識

(%)

		計	大体満足している					不満がある	どちらともいえない	不明	
			計	家事・育児に専念し家族に喜ばれているので満足	家事・育児のほか自分の趣味・勉強・社会奉仕などをしていて充実	職業をもち、生きがいを感じている	その他				不明
計		1000 (2641)	64.6	27.9	8.1	22.3	4.1	2.2	10.6	24.5	0.3
学歴	中学・高小卒まで	1000 (1,486)	65.0	26.7	6.5	25.0	4.0	2.8	9.6	25.0	0.4
	高校旧制女学校卒	1000 (1,044)	63.6	29.2	10.1	18.8	4.2	1.3	12.3	23.9	0.2
	短大卒以上	1000 (87)	69.0	29.9	13.8	19.5	4.6	1.2	11.5	18.4	1.1
	不明	1000 (24)	62.5	29.1	4.2	25.0	—	4.2	4.2	33.3	—

第16表 夫の収入階級・労働の種類別主婦の現在の生活意識

(%)

	計	大体満足している						不満がある	どちらともいえない	不明	
		計	家事・育児に専念し家族に喜ばれているので満足	家事・育児のほかに自分の趣味・勉強・社会奉仕などをしていて充実	職業をもち、生きがいを感じている	その他	不明				
計	100.0 (2,641)	64.6	27.9	8.1	22.3	4.1	22	10.6	24.5	0.3	
夫の収入階級	15万円未満	100.0 (1,633)	60.6	25.4	6.1	22.5	4.5	2.1	12.1	27.0	0.3
	15~20万円未満	100.0 (754)	68.8	31.3	9.3	22.8	3.0	2.4	9.5	21.4	0.3
	20~25万円未満	100.0 (203)	80.8	35.5	17.2	21.2	4.4	2.5	4.9	13.8	0.5
	25万円未満	100.0 (46)	69.6	26.1	23.9	15.2	4.4	—	4.3	26.1	—
(注) 夫の収入階級不明分5は表上省略											
夫の労働種類	管理・事務・技術労働者	100.0 (937)	66.9	32.4	10.2	19.1	3.2	2.0	9.4	23.5	0.2
	現場作業者	100.0 (1,704)	63.3	25.3	7.0	24.1	4.5	2.4	11.3	25.0	0.4

第17表 学歴別不満等があるものの内容

(%)

	計	趣味等したいことがあるができない	ひまがあるので何かをしたが何をしたいかわからない	働くことや働いていることに関心がない	友だちがいない	家族が自分の期待通りにならない	家族が家事・育児に協力してくれない	夫が相談相手になってくれない	生活にハリがない	その他	不明	
												計
「現在の生活に不満がある」「どちらともいえない」計	100.0 (927)	39.6	7.9	19.7	6.0	18.7	7.2	10.5	18.2	22.3	3.1	
学歴	中学・高小卒まで	100.0 (514)	32.5	8.2	19.8	6.0	18.5	6.6	9.9	17.1	23.4	3.5
	高校・旧制高女卒	100.0 (378)	47.6	7.7	20.1	5.8	19.6	7.4	11.1	20.1	21.2	2.4
	短大卒以上	100.0 (26)	73.1	3.9	11.5	7.7	11.5	15.4	11.5	15.4	19.2	—
	不明	100.0 (9)	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	22.2

行政官製庁承認第10744
昭和51年11月30日まで

企業規模	1	2	3	4	事業所数						
------	---	---	---	---	------	--	--	--	--	--	--

秘

勤労者家庭の主婦の生活に関する調査票

(昭和51年10月)

労働省

○ 回答は特にことわりのない場合には、1. 2. 3. ……、
イ、ロ、ハ、……、等について該当するものをそれぞれ
1つだけ○印をつけ、()内には、必要事項を書き込ん
でください。又、ことわりのある場合は、それにした
がつてください。

○ この調査票の送り先は下記のところです。お手数で
すが、できるだけ早く御記入の上、御返送下さい。
(10月31日までにお届くようお願いいたします。)

○ この調査は無記名であり、結果は統計的に処理され、
ご家庭の状況が他人にもれたりするようなことは絶対
にありませんし、税金などもまったく無関係ですか
ら、ありのままご回答下さるようお願いいたします。

問1. はじめにあなたの年齢(10月1日現在)と学歴
をおたずねします。

年 齢	1. 24歳以下	学 歴	1. 中学・旧制高小卒業
	2. 25～29歳		2. 高校・旧制女学校卒業
	3. 30～34歳		3. 短大・工専・旧制高専卒業
	4. 35～39歳		4. 大学卒業以上
	5. 40～44歳		
	6. 45～49歳		
	7. 50～54歳		
	8. 55歳以上		

問3. ご主人の収入はいくらですか。前月(9月分)の
税込総収入額をお答え下さい。ただし兼務など特別
な支給分は除いて下さい。

1. 10万円未満
2. 10万円以上 ～ 15万円未満
3. 15万円以上 ～ 20万円未満
4. 20万円以上 ～ 25万円未満
5. 25万円以上 ～ 30万円未満
6. 30万円以上

問2. 御主人の会社でのお仕事は次の分類のどれに属し
ますか。

1. 管理・事務・技術労働者
2. 現場作業者

問4. お子さんは何人ですか。
(現在、同居してない方も含めて答えて下さい。)

1. 子供なし	
2. 子供あり	計 ()人
	イ、未就学児 ()人
	ロ、小学生 ()人
	ハ、中学生以上在学中 ()人
	ニ、その他 ()人

問5. あなたの家には夫婦と未婚の子供以外に同居の家族がいますか。

(ここで、家族とは、あなたや、夫の親、兄弟、兄弟の子供、結婚したお子さんの家族などを含みます。該当するものすべてに○印をして下さい。)

1. なし	
2. あり	<input type="checkbox"/> イ. あなたの父 <input type="checkbox"/> ロ. あなたの母 <input type="checkbox"/> ハ. 夫の父 <input type="checkbox"/> ニ. 夫の母 <input type="checkbox"/> ホ. 結婚している子供とその家族 <input type="checkbox"/> ヘ. その他

問6. あなたの住居はつぎのどれですか。

1. 持家
2. 社宅等
3. 公営、公団、公社の借家
4. 民営の借家・借間

問7. ご主人は勤め先で過去3年半の間に(48年4月以降)休業4日以上の労働災害を受けたことがありますか。

(通勤途上の災害を含みます。)

1. なし
2. ある → 休業日数()日

問8. ご主人の最近の健康状態はどうですか。

1. 健康である
2. あまり健康でない
3. 持病があるなど不健康である

問9. あなたは、今何か収入を得る仕事をしていますか。仕事をしている場合、それはどんな仕事ですか。

1. 収入を得る仕事をしていない		
2. 収入を得る仕事をしている それはどんな仕事ですか		
<input type="checkbox"/> イ. 会社や事務所などに雇われて働いている <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>a. パートタイマー</td> </tr> <tr> <td>b. パートタイマーでない</td> </tr> </table>	a. パートタイマー	b. パートタイマーでない
a. パートタイマー		
b. パートタイマーでない		
<input type="checkbox"/> ロ. 家庭内職(業者から材料を与えられて加工するもの)をしている		
<input type="checkbox"/> ハ. おけいごなどの教授や、家庭教師、学習塾などをしている		
<input type="checkbox"/> ニ. 家業などの自営業で業主として、又は家族従業員として働いている		
<input type="checkbox"/> ホ. その他 仕事の内容を具体的に記入して下さい。 ()		

問10. 収入のある仕事をしている人におたずねします。前月(9月)分の税込み総収入額はどのくらいでしたか。(賞与など特別な支給分は除いて下さい。)

1. 1万円未満
2. 1万円以上 ~ 2万円未満
3. 2万円以上 ~ 3万円未満
4. 3万円以上 ~ 6万円未満
5. 6万円以上 ~ 10万円未満
6. 10万円以上 ~ 15万円未満
7. 15万円以上 ~ 20万円未満
8. 20万円以上

問11 収入のある仕事をまったくしていない人におたずねします。あなたは日頃何か収入のある仕事をしたいと思っていますか。

1. とくにしたいと思わない

2. したいと思う

現在仕事をしたい理由を教えてください。

現在仕事をしていない理由は主に何ですか。

イ、自分や家庭の事情による

ロ、希望する適当な仕事が見つからない

ハ、その他

ア 現在仕事をさかしている

イ とくに積極的に仕事をさかしていない。

ア 家事・育児に手をとられる。

イ 病人や世話を必要とする老人がいる。

ロ 自分が病弱である。

ニ 夫がゆるさない。

ハ その他()

ア 通勤時間の短い仕事がない。

イ 労働時間の短い仕事がない。

ロ 自分の能力を活かす仕事がない。

ニ 高収入を得られる仕事がない。

ハ その他()

ハ その他 ()

問12 収入のある仕事をしている人及びしたいと思っている人におたずねします。

あなたが仕事をする、あるいはしたいと思う理由は次のどれですか。あなた自身の考えを書いて下さい。(答は一つでなくても結構です。)

1. 家計を助けるため

イ、生活を支えるため

ロ、住宅購入資金(月賦返還を含む)を得るため。

ハ、子供の教育資金を得るため

ニ、その他()

2. 現在適当な職業をもっているからやめたくない。

3. 自分自身のこづかいがほしい

4. 自分の能力を活かしたい

5. 夫に依存しなくても生活できるようにしたい

6. 生活に変化をもち、家庭外で多くの人と会いたい

7. その他()

問13 すべての人におたずねします。

あなたは何か収入を得ることに役立つ資格・免許・技能をもっていますか。

1. もっていない

2. もっている

その資格・免許・技能を具体的に書いて下さい。

()

その資格・免許・技能を現在就業に活かしていますか。

1. 活かしている

資格・免許・技能の種類

()

2. 活かしていない

問14. あなたは収入を得ることを目的として資格・免許・技能をもつための勉強をしたり、訓練を受けたりしていますか。

1. している
それはどんな資格・免許・技能ですか
()

2. していない
1. 将来したいと思う
どんな資格・免許・技能ですか
()
2. これからもしたいと思わない

問15. 問14. で2のイに○印をつけた人におたずねします。収入を得ることを目的として何か資格・免許等を取りたいと考えながらも勉強や訓練を現在はいないのは何故ですか。(答えは幾つになっても結構です。)

1. ひまがない
2. お金がかかる
3. 子供に手がかかる
4. ひとりでは心細い
5. どうしたらよいか方法がわからない
6. 夫の同意が得られない
7. 適当な場所や施設がない
8. 適切な指導者がいない
9. その他()

問16. すべての人におたずねします。

収入を得ることを目的として、資格・免許をとったり、技能をもつための勉強をする場合に次のどの方法でやりたいと思いますか。

1. 独学や通信教育など自宅のできる方法
2. 専門の学校や訓練施設に通う(比較的長期の通学)
3. 講座、講習を受ける(短期の受講)
4. その他()

問17. すべての人におたずねします。

あなたは現在、次のようなことをふだんしていますか。又は将来したいと思いますか。

○おけいごとや趣味
1. している
2. していない { 1. 将来したいと思う
2. 別に将来もしたいと思わない }

○スポーツ・運動(なわとび・美容体操を含む)
1. している
2. していない { 1. 将来したいと思う
2. 別に将来もしたいと思わない }

○奉仕活動や団体活動
1. している
2. していない { 1. 将来したいと思う
2. 別に将来もしたいと思わない }

問18. 大変失礼な質問をさせていただくことをお許し下さい。

今、万一あなたの夫が思いがけないことで、収入がまったくなくなったとしたら、家計維持のためあなたはどうしますか。

主なものを二つまで選び①②と順位をつけて下さい。

1. 今の自分の職業の収入で何とかやっていく
2. 自分が持っている資格・免許・技能を生かして働く
3. どんなことをしてでも働く
4. 保険・年金・財産で何とかやっていく
5. 自分や夫の家族や親せきに頼る
6. 子供に頼る
7. その他の方()
8. どうしたらよいかわからない

問19. ご主人が会社を定年退職するとき又は定年制はないが、高齢で退職するとき)家計をどのようにする計画ですか。主なもの1つだけ○印をつけて下さい。

1. 年金や保険・退職金・財産などで生活する
2. 夫に働けるだけ働いてもらう
3. 今の自分の職業を続けて生活を維持する
4. 夫も自分も働いて生活を維持する
5. そのところに向けて計画的に自分が職業をもち、夫に代る
6. 子供に頼る
7. その他の方法
()
8. あまり考えたことがない

問20. 子供が成長して1人立ちしている場合(子供がない場合を含む)、もし、夫より長生きをしたらあなたはひとりぐらしをしたいと思いませんか。

1. ひとりぐらしをしたい
2. 子供と同居したい
3. 老人ホーム等の施設にはいりたい
4. その他()
5. わからない

問21. あなたは現在の生活に満足していますか。しているとすれば次のどれにあてはまりますか。

1. 大体満足している
 - イ、家事・育児に専念し家族に喜ばれているので満足している
 - ロ、家事・育児のほか自分の趣味・勉強・社会奉仕などをしているので充実している
 - ハ、職業をもち、生きがいを感している
 - ニ、その他()
2. 不満がある
3. どちらともいえない

問22. 問21. で2又は3に答えた人におたずねします。あなたの不満やなやみは次のどれにあてはまりますか。(幾つでも○印をつけて下さい。)

1. 趣味等、したいことがあるができない
2. ひまがあるので何かをしたいが何をしたいかわからない
3. 働くことや働いていることに関してなやみがある
4. 友だちがいない
5. 家族が自分の期待通りにならない
6. 家族が家事・育児に協力してくれない
7. 夫が相談相手になってくれない
8. 生活にハリがない
9. その他

御協力をどうもありがとうございました。